

いきがいに関する事例補足レポート

平成17年10月8日
新宿区民会議第2分科会資料

新宿区ファミリー・サポート・センター作成

ファミリー・サポート事業は、新宿区から新宿区社会福祉協議会が委託を受けて実施している子育て支援事業です。区民による会員制の相互援助活動で、子育ての援助を受けたい方（利用会員）と子育ての援助を行いたい方（提供会員）の橋渡しをしています。

●ケース1：40代女性 40代の夫と二人の生活

1歳の女の子を夕方保育園に迎えに行き、親の帰宅まで預かるサポートをしている。

提供会員本人が仕事をしようかと考え、夫に相談すると「仕事はしてもよいが、〇〇ちゃんのサポートは断らないで」と言われた。本人は仕事の時間を調整し、サポートは継続している。

子どもを預かる日は、夫もとても楽しみにしていて早く帰宅する。どうしても帰れない時は途中で電話が入り、「声だけでも聞きたいから電話を代わって！」などの話も届いている。

●ケース2：60代男性 退職後、提供会員として登録 妻、娘との生活

妻も以前は仕事をしていたが、退職後少し精神的に疲れていた。小学生の男の子を学童クラブに迎えに行き、親の帰宅まで預かるサポートをしている。妻は、初めのうちは子どもの声を聞くのも辛そうにしていた。夕食の準備も提供会員本人がすることもあった。

しかし、最近は子どもを預かる日を楽しみにしていて、夕食作りも張り切っている。おかずも一品だったのが、二品、三品と増えている。預かった子どもが喜んで食べているのを見てとてもうれしそうにしている。

●ケース3：60代女性 退職後、提供会員として登録 夫と80代の母親との生活

0歳から6歳くらいまでの子どものサポートをいろいろとしている。子どもを預かる日を80代の母親がとても楽しみにしている。

母親は、外出すると子どものおもちゃ等が目につくようで、時々買ってくる。次に子どもを預かるとそれで遊んであげている。

●ケース4：40代女性 主婦 夫、息子、娘との生活

息子は高校生で、スポーツをしていて体が大きい。保育園に通っている子を預かっている時、その息子が体を小さくして、「おにいちゃんちゅよ〜！」と話しかけている姿を見て思わず笑ってしまったという。